

平成22年 1月 25日

岩手医科大学

学長 小川 彰 殿

貴機関における動物実験の実施体制に関して、提出された自己点検・評価結果報告書に対する検証結果を通知します。

国立大学法人動物実験施設協議会・公立大学実験動物施設協議会  
動物実験に関する相互検証プログラム  
検証委員会 委員長



対象機関：岩手医科大学

申請年月日：平成21年5月28日

訪問調査年月日：平成21年10月29日

調査員：

片平清昭（福島県立医科大学）、笠井憲雪（東北大学）

#### 検証の総評

医学部、歯学部および薬学部の3学部からなる東北唯一の私立医科系大学として、医学・生命科学研究や学生教育に必要な動物実験が実施されている。飼養保管施設は小規模ながら実験動物センターを中心として、専任の実験動物管理者や飼育担当者が配置され、動物の健康管理や施設の衛生管理が行き届いている。これらの教職員のほとんどが実験動物の管理に関わる専門的資格の保有者であることも高く評価できる。施設や設備の日常的な保守点検や維持管理の状況も良好であり、現時点で問題となる点は見当たらない。キャンパス移転事業の中で、新たな実験動物施設の建築計画が具体化されており、これまでの動物実験の良好な体制をさらに発展させていくことが期待される。

遺伝子組換え動物の使用や飼育管理、および動物への苦痛軽減についての委員会の役割についてもさらなる機能強化を図り、他大学の模範となることが期待される。

## 検証結果

### I. 規程及び体制等の整備状況

#### 1. 機関内規程

1) 機関による自己点検・評価結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する機関内規程が定められている。 <input type="checkbox"/> 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 機関内規程が定められていない。
2) 自己点検・評価の妥当性
「岩手医科大学動物実験規程」が定められ、その内容は基本指針の趣旨に沿ったものである。よって、動物実験に関する機関内規程の整備状況について、自己点検・評価は妥当な内容と判断する。
3) 改善に向けた意見
特になし。

#### 2. 動物実験委員会

1) 機関による自己点検・評価結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会は置かれていない。
2) 自己点検・評価の妥当性
各学部教授会から選任された 13 名の委員で構成される動物実験委員会が設置されており、委員会の役割や構成は基本指針に沿ったものである。また、「岩手医科大学動物実験規程」を受けて動物実験委員会に関する必要事項を定めた「岩手医科大学動物実験委員会規程」が制定されている。よって、動物実験委員会の整備状況について、自己点検・評価は妥当な内容と判断する。
3) 改善に向けた意見
特になし。

#### 3. 動物実験の実施体制

1) 機関による自己点検・評価結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。 <input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験の実施体制が定められていない。
2) 自己点検・評価の妥当性

「岩手医科大学動物実験規程」において、動物実験計画の立案、審査、承認、結果報告等の手続きが規定され、基本指針に沿った動物実験の実施体制が整備されている。また、これらの手続きに必要な各種様式を定め、教育訓練用 DVD を制作して学内での周知を図るなどの工夫も見られる。さらに、動物実験を行う実験室の要件を定め、現場の要件確認を行って設置承認を行うなど、学長の管理下で動物実験を行う体制が明確に定められている。よって、動物実験の実施体制について、自己点検・評価は妥当な内容と判断する。

3) 改善に向けた意見  
特になし。

#### 4. 安全管理を要する動物実験の実施体制

##### 1) 機関による自己点検・評価結果

- 該当する動物実験の実施体制が定められている。
- 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 該当する動物実験の実施体制が定められていない。
- 該当する動物実験は、行われていない。

##### 2) 自己点検・評価の妥当性

病原体の感染実験、有害化学物質の投与実験、遺伝子組換え動物を用いる実験について、それぞれの安全管理を目的とする規則等が定められている。なお、放射性同位元素を用いる動物実験については行われていないことを確認した。遺伝子組換え動物の飼育管理について、組換え DNA 安全委員会と動物実験委員会の連携が弱く、当該動物の飼育室の表示に不十分な点が見受けられた。よって、安全管理を要する動物実験の実施体制について、本委員会としては「一部に改善すべき点がある」と判断する。

##### 3) 改善に向けた意見

遺伝子組換え動物の使用について、組換え DNA 安全委員会と動物実験委員会の連携の強化が必要であり、法令に照らし飼育室の表示等の再点検を行うとともに、飼養保管施設設置承認申請書に遺伝子組換え動物の飼育についての記述欄の追加等を検討すべきである。動物実験委員会と組換え DNA 安全委員会との情報の共有を図るべく組織変更を行う予定であることから、本指摘については改善が期待できる。

#### 5. 実験動物の飼養保管の体制

##### 1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

##### 2) 自己点検・評価の妥当性

飼養保管施設や実験室の申請、委員会による調査、学長による承認の体制をとり、実験動物の飼養保管に対する体制整備がなされている。「岩手医科大学動物実験センター動物飼育管理標準作業手順書」により遠方の矢巾キャンパスにある施設も含め大学内の3箇所の実験動物飼養保管施設が動物実験センターにより一元的に適正に維持管理されている。専任教員の実験動物管理者も配置され、特に実験動物一級技術者認定を受けた職員が3名いることは望ましい状況であり、高く評価される。よって、自己点検・評価の内容は妥当と判断する。

3) 改善に向けた意見  
特になし。

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

意見

II. 実施状況

1. 動物実験委員会

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、適正に機能している。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

動物実験計画の審査等を行い、基本指針に沿った委員会の機能を果たしている。特に、委員会が飼養保管施設や実験室を調査する等、意欲的に活動し、その活動状況は議事録に記録されている。よって、動物実験委員会に関する自己点検・評価は妥当な内容である。なお、実験計画の審査基準については委員間の認識に差があるような記述も一部に見受けられた。

3) 改善に向けた意見

動物実験計画の審査において、苦痛軽減の観点からの審査ポイント（苦痛度分類法など）の意味や人道的エンドポイントの概念等について動物実験委員会委員及び実験実施者への一層の浸透を図る必要がある。

2. 動物実験の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

承認済みの動物実験については、実験動物の使用状況も含めて実験動物の状態を動物実験センター職員が把握しており、研究者に対しても適宜助言を行っている。さらに、動物実験結果についても適正に報告されていることを確認しえた。よって、自己点検・評価の内容は妥当と判断する

3) 改善に向けた意見  
特になし。

### 3. 安全管理を要する動物実験の実施状況

#### 1) 機関による自己点検・評価結果

- 該当する動物実験が適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

#### 2) 自己点検・評価の妥当性

安全管理上、問題となる事例は認められず、概ね適正に実施されている。よって、安全管理を要する動物実験の実施状況について、自己点検・評価は妥当な内容と判断する。

3) 改善に向けた意見  
特になし。

### 4. 実験動物の飼養保管状況

#### 1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

#### 2) 自己点検・評価の妥当性

実験動物の飼養保管が集中的に実施されており、飼養保管の手順等もマニュアルで具体的に定められ、実施状況が確認できる業務日誌類も整えられている。また、動物の健康管理や施設の衛生管理も適正に行われている。よって、実験動物の飼養保管状況について、自己点検・評価は妥当な内容と判断する。

3) 改善に向けた意見  
特になし。

### 5. 施設等の維持管理の状況

#### 1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

#### 2) 自己点検・評価の妥当性

経年劣化の進む狭隘な施設にもかかわらず、飼養保管手順や現場での作業等に工夫を凝らし、適正に維持管理されている状況にある。よって、施設等の維持管理について、自己点検・評価は妥当な内容と判断する。

3) 改善に向けた意見

新キャンパス（矢巾地区）への移転事業で、平成 22 年度の稼働をめざして動物実験センターの建設が進められている。これまでの狭隘状況による諸事情の解決策も講じられると考えられることから、一層の高水準の維持管理を期待する。

6. 教育訓練の実施状況

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

動物実験実施者等に対する教育訓練の実施記録や受講者一覧について確認した。動物実験専門家として動物実験センターに専任教員（准教授・獣医師）が配置され、今後の計画的な教育訓練への取り組みについても確認しえた。よって、教育訓練について、自己点検・評価は妥当な内容と判断する。

3) 改善に向けた意見

特になし。

7. 自己点検・評価、情報公開

1) 機関による自己点検・評価結果

- 基本指針に適合し、適正に実施されている。
- 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。
- 多くの改善すべき問題がある。

2) 自己点検・評価の妥当性

実験者ごとに各自の研究における動物実験について自己評価を行い、動物実験結果報告書の書式にもその結果を記述すべき項目がある。また、全学の各部局における自己評価においてもホームページ等での公開が開始されつつある。よって、当該事項の自己点検・評価は妥当な内容と判断する。

3) 改善に向けた意見

特になし。

8. その他

（動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果）

意見

動物実験に関する書類等の整理や保管等もしっかり行われており、大学事務部門による十分な支援がなされている事が伺われる。飼養中の実験動物について、実験の実施状況を毎週定期的にセンター職員が把握し、必要に応じて実験実施者へ専門的な助言を行ったり、歯学部への実験動物の運搬等でもセンター職員が積極的に支援している状況は高く評価される。

動物実験センターの現在の建物自体は老朽化しており十分とは言えないが、矢巾キャンパスへの動物実験センターを含む移転を契機に安全管理体制のさらなる強化を図ることを期待する。